

私の大切な家族

ミッチー ♂ 12歳 (猫・ミックス)

ランディー ♂ 5歳 (犬・ケアンテリア)

あぶらや さとる
軽舞 油谷 諭さん家族



奥さんと写真に納まるミッチー (左) とランディー

「お母さん、空から猫が降ってきたの」と当時中学2年生だった娘さんが抱えて家に連れてきたのがミッチーとの出会い。1歳にも満たないミッチーは外敵から追われ木の上に登り、偶然通りかかった娘さんのところに足を滑らせ落ちてきた。「動物がいると父も元気になると思って」とランディーは、奥さんの裕子さんの父が認知症になり、介護をする裕子さんが、ペットショップで見初めた愛犬だ。「決して仲は良くないですが、最近はお互いの存在を認めあっているみたいですよ」と2頭をやさしい目で見ると、「主人の自慢は、ランディーがオズの魔法使いで出てきたトトと同じ種類の犬ということで、左右の目の色が違うミッチーは、テレビで観たタイの王室が飼ってる猫もそうだったので私の自慢なんです」と笑顔を見せる裕子さんだ。

本

私の出会った素敵な本

「たろうのひっこし」

村山桂子/作 堀内誠一/絵

ひがしかわ か
軽舞 東川 なの花さん

「お母さんからジュータンをもらったたろうは、あちこちにそれを敷いて自分の部屋を作っていく夢いっぱい絵本なんです」と話すのは、7月6～29日にかけて京町保育園で保育実習をしていた東川さん。通っている保育士を養成する専門学校の校舎移転により古い本を学生に開放した書籍類の中にその本が目に入り、幼いころ読んでもらった記憶が目覚めたという。「あーなつかしい！これは絶対もらおうと思って」と本の表紙をながめ無邪気な笑顔が広がる。

今はなかなか本を読む時間がとれないというが小中学生の時は本を開くのが好きな子だった。「三国志、ハリーポッター、ダレン・シヤンなどなんでも興味を持って読みました。本の素晴らしさを感じたところです」と振り返る。「小さいころからなりたかった保育士になって、子どもたちに夢や思いが広がる絵本や紙芝居をたくさん読み聞かせてあげたいですね」とやさしいまなざしでそう話す東川さんだ。



出 会

い

き

い

き

ふるさと

凶

鑑

人

自然農法にこだわり心豊かな生活を

幌内 梅内 誠さん (47歳)



「今は晴耕雨読の生活ですよ」と頬を緩めおだやかに話す梅内さん。現在、幌内地区に居を構え自然農法に取り組んで3年目の新規就農者だ。前職は26歳で独立し約15年間飲食店を経営。DJもこなす華々しい生活を送っていた。「お金をもうけたくて、その仕事をやっていたわけですが、パブル期後半ですごく景気がよかった時代でした。家を建て外事に乗り、いわばパブリックな暮らしとでもいうのでしょうか。しかし、梅内さんの心はお金では満たされなかった。ストレスがたまっていくときに山の中を散歩したり、山菜採り、釣りをしていると何か自分にしっくりくるんですよ。そんなときに、田舎、田舎暮らし、自給自足のことを考えるようになったんです」と過去を振り返る。

り返るようにゆっくりと話す。心がモヤモヤとし揺れ動く梅内さんは友人を通して吉岡政美さん(豊沢)と偶然出会う。梅内さんは吉岡さんに「店も家も手放して田舎で暮らしてみたい」と自分の思いを打ち明けてみた。「本気でいつけるの？」と驚く吉岡さんだったが、同じ年で意気投合した二人の行動は早かった。町内に当座の住居を見つけ、梅内さんは1年間農業研修生として土と向き合い、農業への扉を開いた。

「政美ちゃんとの出会いが厚真のいろいろな人を繋げてくれた。農業研修でお世話になった永山和夫さん(鹿沼)、住居を含む農地を貸してくれた遠藤隆さん(新町)、独自の農業をする私たちを温かく迎え入れ支えてくれていた幌内の皆さんなどたくさんの人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。本当に厚真に来てよかったし、心豊かに生活できて毎日が楽しいですよ」と佳苗さんとほほえむ梅内さんだ。

ました」と目を見開く。梅内さんのこだわりは、不耕起、無農薬、無化学肥料などを特徴とする自然農法。「自給自足に興味を持ち始めたとき、満足のいく人間の生き方とは何なのだろうと考えている中で行き着いたのが、自然農法なんです。福岡正信さんという方が提唱するものなのですが、この方の考え方や生き方、その栽培方法に感銘を受け、私たちが福岡さんの本を参考にしながら実践しているんです」とパートナーの佳苗さんを見る梅内さん。米以外の野菜を少しずつ試行錯誤を重ねながら栽培。JAのもぎたて市、以前付き合っていた飲食店へ卸したり、移動販売などを二人三脚で行っている。「食べてくれた人のリピート率は100%に近い。自信を持ってやっていきたいです」と目を輝かせる二人。